

(1) 竣功せる臥龍橋全景・下流よりの遠望。

臥龍橋架換工事概要

山口縣土木課技師 大野 唯 糊

1・位 置

臥龍橋は府縣道岩國柳井線中錦帶橋の下流約600米の地點に於て錦川に架設せらる。

2・沿 革

舊橋（橋梁全長181米61、全幅員6米60、有効幅員5米45、13徑間）は鐵筋混凝土橋脚上に木造簡易構桁を架渡せる上路式橋梁にして、竣功以來18年の歳月を閲し腐朽甚しく、特に輓近に於ける交通量の激増は、橋梁架換の一日も忽緒に附すべからざる處となり、昭和8年度以降2ヶ年繼續の農村振興土木事業として之が架換をなし、併せて錦川改良工事に伴ふ一徑間の繼足工事を施行せり。

3・設計の概要

臥龍橋は錦帶橋と共に山河景勝の裡に雙び

架せられ、一は五龍起伏常に天霄に騰らんとする勢あるに昭應し、臥龍橋はその名の如く清流に横臥せる白龍の靜態を象り、附近一帯の風致と調和せしめ錦帶橋と共に錦川を飾る雙璧たらしめんとす。

イ、橋 體

橋梁全長195米58、全幅員7米20、有効幅員6米56、1徑間13米97、14徑間よりなる上路式鋼鈹桁橋にして、橋桁の最下端は錦川改良計畫高水位以上1米10の空間を存せしむ。

ロ、橋 面

橋面の縦斷勾配100分の1、横斷勾配50分の1となし厚15種なる鐵筋混凝土床版上に厚5種の礫石鋪裝を施せり。其の施行面積1,282平方米とす。

ハ、橋臺及橋脚

右岸橋臺は在來基礎上に、左岸橋梁は井筒基礎上に鏡面割石積裏込玉石混凝土の重力式

混凝土擁壁とす。

橋脚基礎は總て舊基礎を利用せり、即舊基礎桶の間は生松丸太を以て打固め更にこの舊基礎を包含して、長7米80、幅2米30、深平均3米50の井筒を沈下せり、橋脚は井筒基礎上に圓型鐵筋混凝土柱5本建とし、上下に横を附し、之が先端には流木の撃衝に備へ併せて其の美觀を保たしむるため青銅色金具を以て被覆せり。

二、高欄

鐵筋混凝土造にして擬寶珠欄干に配するに春日燈籠を以てし雅趣を加味せり。

4・主なる使用材料

セメント	9,293袋
鐵材	204.9觔
鐵筋	68.8觔
砂利	1,134立方米
砂	581立方米

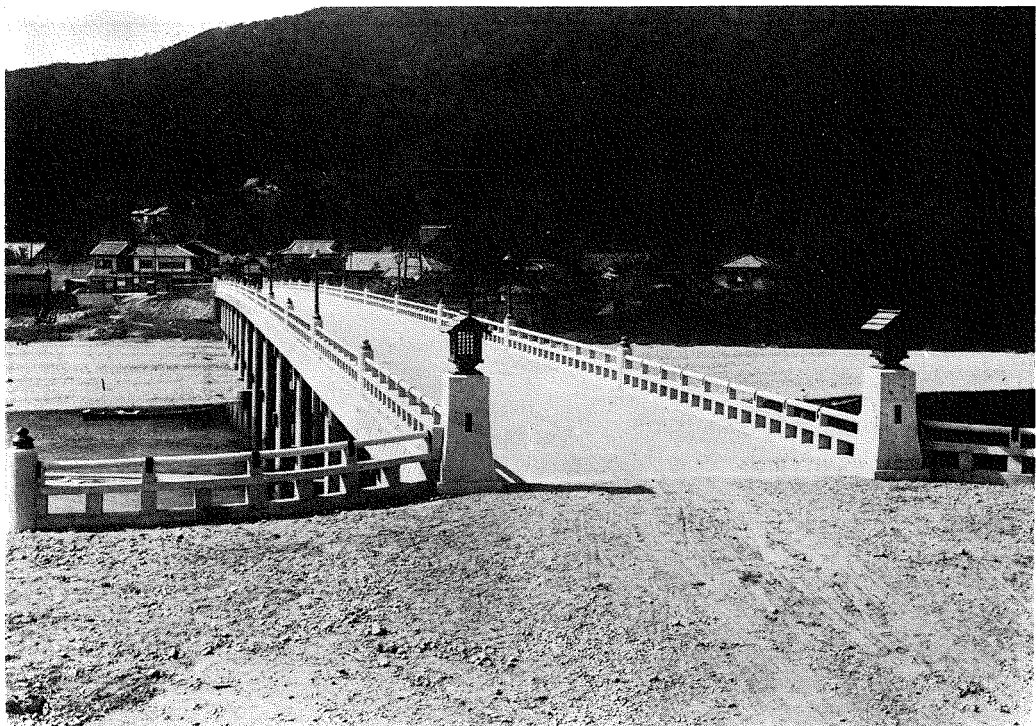
5・工費及工期

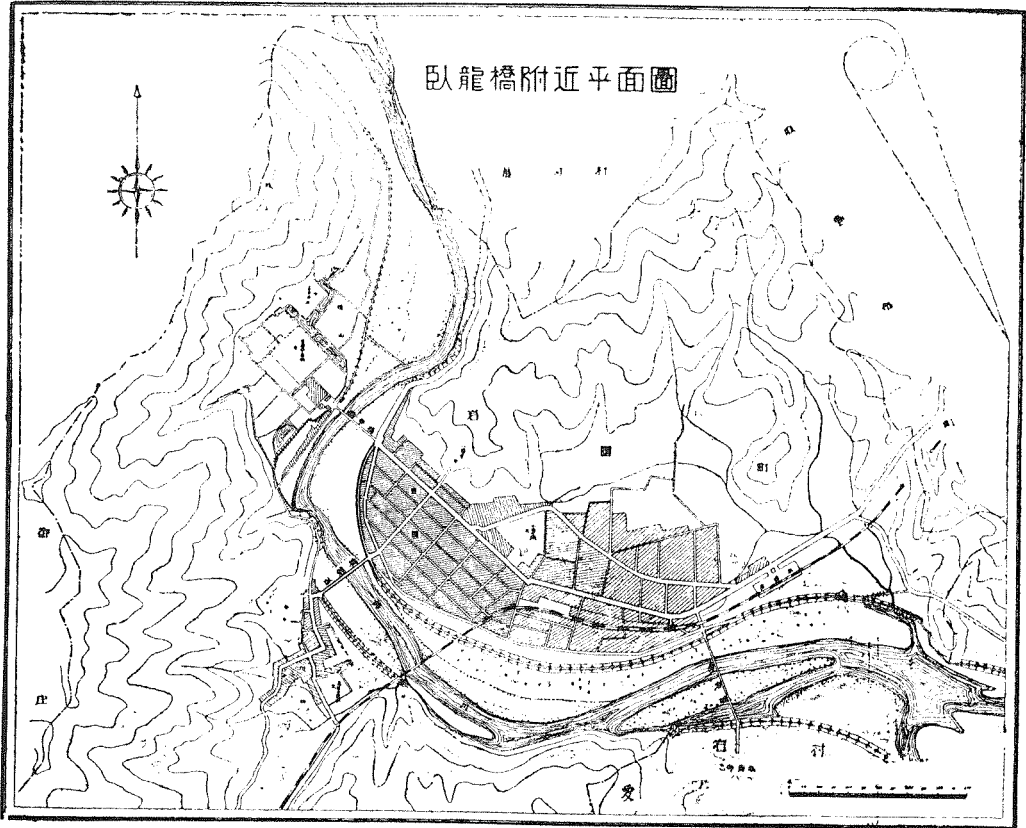
工費(雜費を除く)	108,360.97 ^圓
橋梁費	93,164.03
橋臺及橋脚	27,096.72
橋體	66,067.31
舊橋取除及假橋損料	5,940.94
取付道路費	2,335.41
用地及地上物件移轉費	6,920.59
使用労働者延人員	18,900人
工期	
	昭和8年9月 着工
	昭和10年7月 竣功

6・工事關係者

橋梁工事	東亞工業株式會社
設計監督	山口縣經濟部土木課

(2) 臥龍橋正面全景。





(3) 臥龍橋附近平面圖。

附

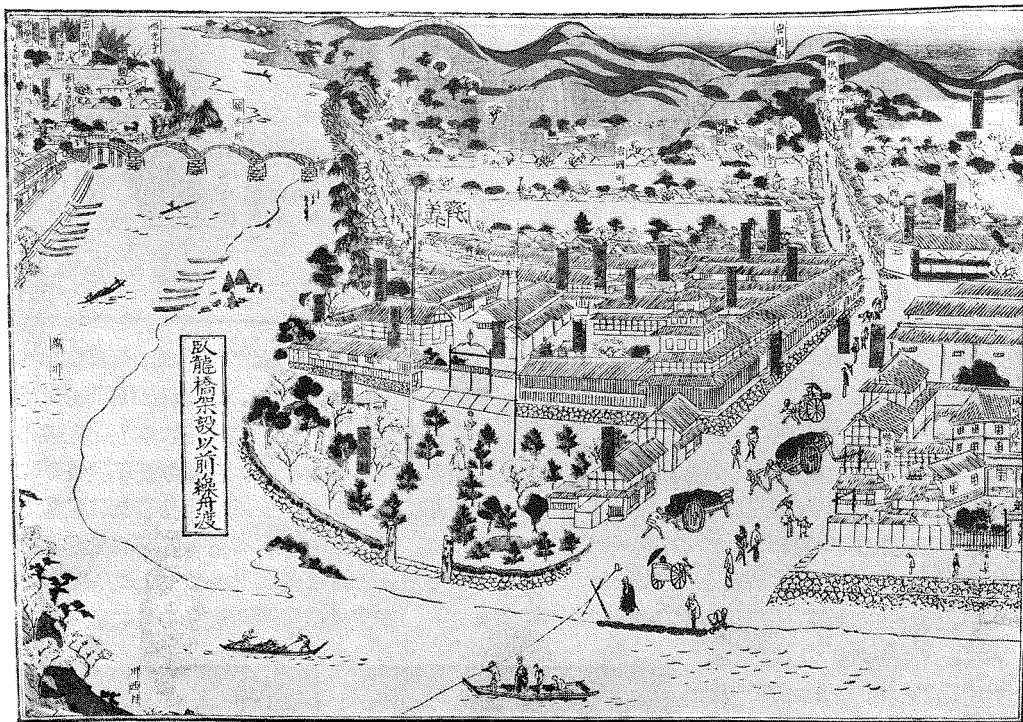
録

錦川渡渉の變遷

1. 岩國町

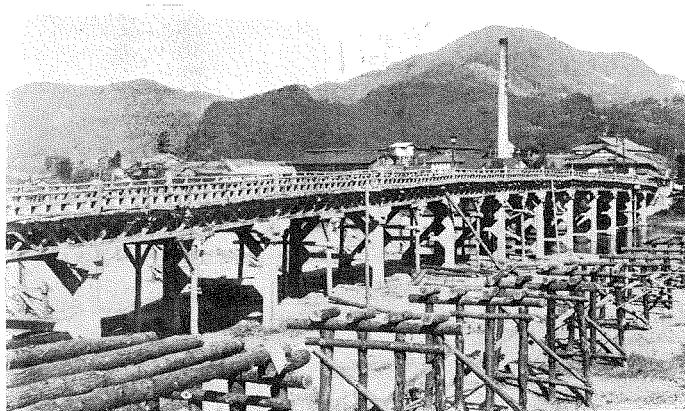
岩國町は山口廣島兩縣の境に近く周防東部の要衝に當り、西方は城山の翠巒を廻らし、東北方には岩國山を控へ廣袤東西3軒7、南北5軒5、人口1萬3千、國道及山陽本線に沿ひ錦川此間を貫流して眞に山紫水明の地なり舊藩主吉川氏の移封以前にありては現在の街衢は悉く錦川の流域若くは蘆生の沼地にして荊棘の間僅に民家の點綴するを見るのみ。

獨り横山の地には延慶年中に大内氏の建立せる永興寺あり。當代の碩德佛國々師を開山とし、後普明國師の來りて錫を留むるに及びて堂塔伽藍全備し輪奐の美は風光の明媚と相映し偉觀を呈せしも天正年中兵燹に罹り爾來荒廢に委せらる。慶長5年雲州富田の城主たりし吉川氏大内氏に代りて周防を領し居を岩國に置くに及びて土民此地に宿集し始て岩國城下は形成せられ爾來270年明治維新に至る。



(4) 臥龍橋架橋前に於ける
線舟。

(5) 舊臥龍と假橋工事。

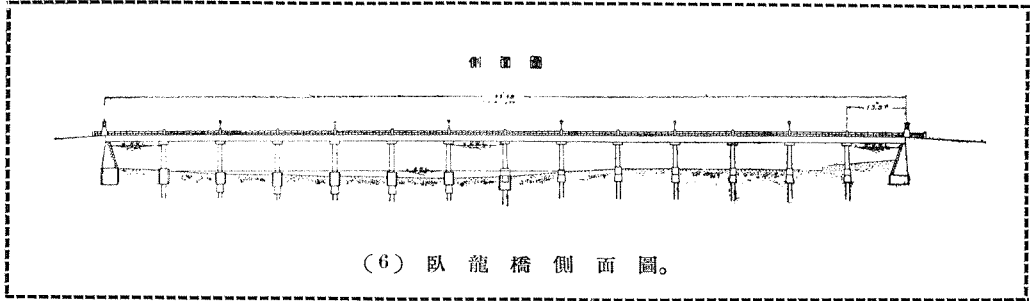


2. 錦川

往昔 天智天皇筑紫行幸の時向山の躑躅咲亂れ川水に映じたるを叡覽ありて錦を見るが如しと仰せける故錦川の名之より起れりと。

流路延長124軒、流域面積864平方軒、上中流部は溪谷相迫りて急流をせども下流岩國町に入りて漸く平地部となる、以下河口に至る3軒間は田園相連り錦川の文明此處に發生す、錦川非常洪水位を臥龍橋量水標により檢

するに6米12(平水位より約5米40)を示し、其流量毎秒3250立方米、河底勾配650分の1なる砂礫層より成る、これ往時に於て簡易なる木橋架設の容易ならざりし所以なりと雖も古く錦帶橋あり、又明治21年臥龍橋の架せらるゝあり、此二橋梁の記録はよく岩國町に於ける錦川渡渉變遷の大要を語るべきものなら



(6) 臥龍橋側面圖。

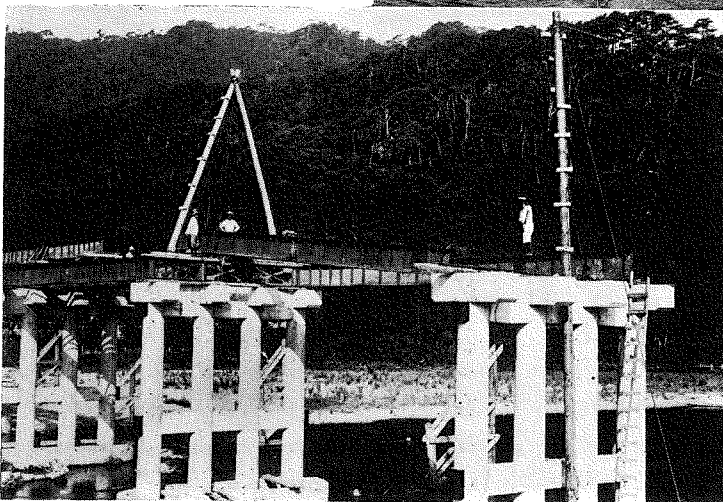
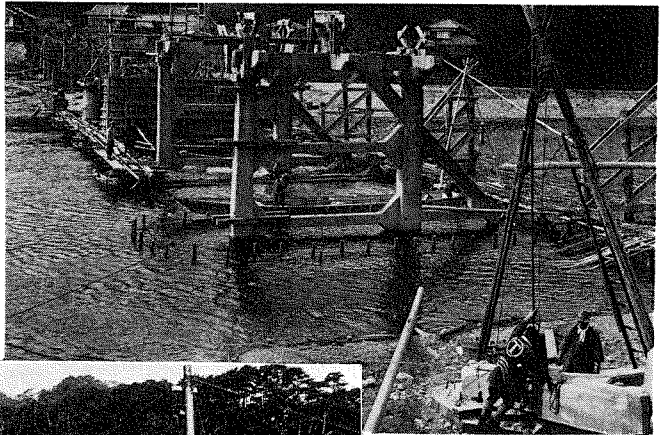
んか。

3. 橋梁架設

イ、錦帯橋

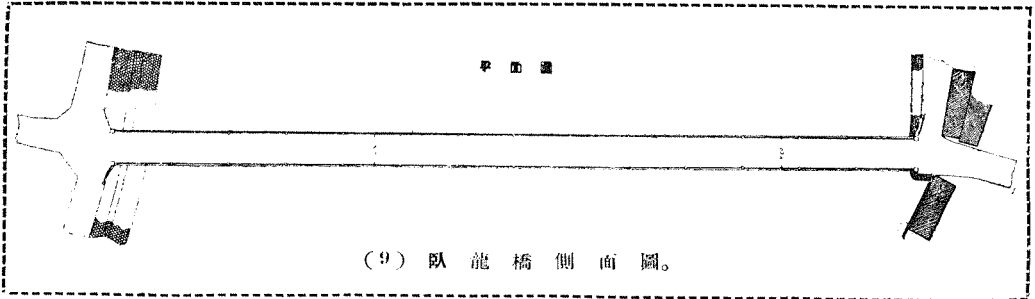
舊岩國藩治所横山の東麓にあり。諸般の藩政此處に於て行はれ土庶往來日夕頻繁なりしも、錦川の交通僅に渡舟なるを以て、一朝河水氾濫せば舟揖通ぜず往來杜絶し不便云はん方なし。然れども尋常の架橋を以て錦川の急流を支ふべくもあらず。當代藩主吉川廣嘉公深く之れを憂へ構思多年、遂に奇巧精緻天下絶無の名橋を案出せり。時に今を去る263年延寶元年なり。然るに翌二年非常洪水ありて中央の三拱橋流失の災厄に遭ひしかば直に之が復舊工事を起し同年竣功す。

橋梁延長195米8、總幅員5米、有効幅員4米25、5徑間よりなる。中央の三徑間は純然たる彈性拱橋にして、又柱橋たる左右兩端の二徑間も反橋造りなり。引續き張石捨石等により基礎を打固め専ら其の維持管理に留意したれば、爾來歲々河水暴漲し爲めに水勢長堤を破り滔々たる濁流堤内を侵せしこと屢々ありしも、錦帯橋依然濁流荒暴の袖に立ち敢て



(7) 舊橋脚取除と基礎工事。

(8) プレート・ガーダー架設の實況。



(9) 臥龍橋側面圖。

交通杜絶の舊態を再び見ざるに至れり。

ロ、臥龍橋

岩國より對岸川西に通ずる臥龍橋なき以前に於ける兩部落の交通は古來上下二ヶ所の操舟渡によりて行はれたり。明治維新に至るも上流に唯一の錦帶橋あるのみにて而も其構造たるや車馬を通ずる能はず、渡舟も亦一旦洪水を見るや直通の往來を絶ち不便甚しきものあり。茲に於て明治21年3月私營橋梁を架設して之を臥龍橋と命名し渡錢を徴せり。これ一木橋に過ぎずと雖も交道上劃期的施設たり

しなり。然れども洪水のため屢々流失の災を被り、加ふるに交通量の激増は維持管理上長く私營たるを許さざるに至り明治44年1月岩國町に於て之を買収せり、爾來渡錢を廢す。

大正4年8月錦帶橋を國寶建造物として町に保存するの議起り之が國道資格を廢して里道となし、改めて臥龍橋を國道筋に編入せり、同6年工費4萬圓を以て架換をなす、以來流失のことなし。次て道路法の制定に伴ひ、大正9年4月府縣道岩國柳井線に編入せられ今での改築に及ぶ。

(10) 昭和10年6月洪水時に於ける錦帶橋。

